

令和3年度 第1回愛西市総合教育会議 会議録（概要）

会議名称	令和3年度 第1回愛西市総合教育会議	
開催日時	令和3年10月5日（火）午後1時58分から午後3時54分まで	
開催場所	愛西市役所 北館3階 災害対策本部兼会議室1・2	
議長名	日永貴章	
出席者	別紙のとおり	
欠席者	0人	
公開・非公開	公開（一部非公開）	
傍聴人の数	4人	
議題	(1) 中学生体験学習事業について (2) GIGA スクール構想への取組状況について (3) 学校部活動の地域クラブへの移行について (4) 小中学校施設老朽化対策について (5) 小中学校規模等適正化について (6) いじめ・不登校の現状について	
会議経過	別紙のとおり	
会議資料	資料番号1 中学生体験学習事業概要について 資料番号2 タブレット端末を活用した学習について 資料番号3 愛西市地域クラブ移行計画（案） 資料番号3-1、3-2 スポーツ調査結果 資料番号3-3 令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査実技種目の結果（平均値） 資料番号4 愛西市小中学校施設老朽化対策検討委員会 資料番号4-1 愛西市立小中学校施設一覧 資料番号5 児童数の推移 資料番号5-1 学校区別児童生徒数調べ（未就学児童） 資料番号5-2 学校別（新入学）児童生徒数・学級数の推移 資料番号5-3 適正規模等についての検討の経緯 資料番号6 いじめの現状について	
会議録の確定		
確定年月日	署 名	
令和3年11月26日	署名者 愛 西 市 長 日永 貴章 愛西市教育委員会 難波 知里	

1. 愛西市総合教育会議設置要綱第3条に基づく出席者

役 職	氏 名	備 考
愛 西 市 長	日 永 貴 章	
愛 西 市 教 育 長	平 尾 理	
愛西市教育委員会委員	平 野 英 治	職務代理者
”	杉 方 南 衣	
	水 谷 朋 和	
”	大 竹 節 雄	
”	難 波 知 里	

2. 出席した職員（事務局）

役 職	氏 名	備 考
愛 西 市 副 市 長	鈴 木 睦	
愛西市企画政策部長	宮 川 昌 和	
愛西市教育部長	三 輪 進一郎	
愛西市企画政策部参事	伊 藤 孝 一	
愛西市教育部次長	小 島 洋 志	
愛西市企画政策部経営企画課長	堀 田 毅	
愛西市教育部学校教育課長	猪 飼 政 和	
愛西市教育部生涯学習課長	石 田 泰 弘	
愛西市教育部スポーツ課長	伊 藤 義 幸	
愛西市教育部学校教育課主幹	稲 垣 潤 一	
愛西市企画政策部経営企画課	渡 邊 典 夫	
”	東 山 祐 佳	
”	山 口 遼	
愛西市教育部学校教育課	坪 井 靖 史	
”	重 村 みいみ	

会議経過

発言者	内 容
事務局	<p>皆さん、こんにちは。本日はご多用の中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>定刻より少し早いですが、ただいまから「令和3年度第1回愛西市総合教育会議」を始めさせていただきます。</p> <p>当会議におきましては、「愛西市審議会等の会議公開に関する要綱」の規定により、公開の会議となりますが、議題（6）「いじめ・不登校の現状」につきましては、愛西市情報公開条例第5条の規定により、非公開とさせていただきますので、ご承知くださいますようお願いいたします。本日は、傍聴の方が4名いらっしゃいますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>なお、傍聴の方におかれましては、非公開とさせていただく協議に入る前に、事務局が案内させていただきますので、指示に従い、退室していただきますようご協力をお願いいたします。非公開とする協議が終わり次第、再度、事務局が案内させていただきますので、再入室していただくことは可能です。</p> <p>傍聴の際には、同規定に基づき、会議終了後の資料の返却、また撮影及び録音など、会議の進行を妨げる行為を行わないようご協力をお願いいたします。</p> <p>本日の会議録の署名につきましては、市長及び教育委員様にお願いをさせていただいております。今回は輪番制により難波委員となりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、開会にあたりまして、市長からご挨拶を申し上げます。</p>
市長	<p>こんにちは。令和3年度第1回愛西市総合教育会議を開催いたしましたところ、委員の皆様方には、大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>また、常日頃は愛西市政、特に教育行政に対しまして、ご理解ご協力、そしてご尽力を賜っておりますことに対しましても、厚く御礼申し上げたいと思います。</p> <p>ご承知のとおり、今年度におきましても、昨年度から続きます新型コロナウイルス感染症による様々な影響が大変大きい年となっております。現在につきましては、新規感染者の数も少なくなって落ち着いてはいるものの今後また再拡大するのではないかと懸念されております。市といたしましても様々な感染予防対策を市民や団体、関係者の皆様方と講じながら、様々な行事等を進めていきたいと思っておりますので、皆様方にもご理解・ご協力をいただきたいと思います。</p> <p>ご承知のとおり、愛西市総合教育会議につきましては、愛西市における教育・学術及び文化の振興に係る施策等について、協議・調整を行うために設置がされております。皆様方におかれましては忌憚のないご議論をいただきたいと思います。</p> <p>市の現在の状況におきましては、ワクチン接種も順調に進めさせていただいております。今後につきましては3回目の接種が国からどのような指示があ</p>

	<p>るかわかりませんが、そういったことにつきましても、しっかりと準備をしていきたいと思っておりますし、今は12歳以上の方々の接種を進めておりますが、今後12歳以下の方々の接種につきましては、国等の指示を受けながら進めていきたいと思っております。</p> <p>本日の議題といたしましては、「中学生体験学習事業について」、そして、「GIGAスクール構想への取組状況について」、「学校・部活動の地域クラブへの移行について」、「小中学校施設老朽化対策について」、また「小中学校規模等適正化について」、そして「いじめ・不登校の現状について」、ご協議をしていただくこととなっております。皆様方には、先程も申し上げましたが、忌憚のないご意見等を賜りますようお願いを申し上げます。冒頭のごあいさつに代えさせていただきます。</p> <p>事務局</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>次に、本日の会議資料の確認をさせていただきます。資料は、事前に配付させていただいております。</p> <p>まずは、本日の会議次第でございます。</p> <p>資料番号1：中学生体験学習事業概要について 資料番号2：タブレット端末を活用した学習について 資料番号3：愛西市地域クラブ移行計画（案） 資料番号3-1、3-2：スポーツ調査結果 資料番号3-3：令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査実技種目の結果（平均値） 資料番号4：愛西市小中学校施設老朽化対策検討委員会 資料番号4-1：愛西市立小中学校施設一覧 資料番号5：児童数の推移 資料番号5-1：学校別児童生徒数調べ（未就学児童） 資料番号5-2：学校別（新入学）児童生徒数・学級数の推移 資料番号5-3：適正規模等についての検討の経緯 資料番号6：いじめの現状について</p> <p>以上でございますが、不足等はありませんか。よろしいでしょうか。</p> <p>なお、資料番号6につきましては、非公開の議題資料ですので、傍聴の方へのお渡しはしておりませんので、ご了承ください。</p> <p>それでは、会議を進めさせていただきますが、会議録の作成上、ご発言がある場合は、お手を挙げていただきまして、議長から指名を受けていただきます。その後、お名前をおっしゃっていただき、ご発言いただきますようお願いいたします。</p> <p>では、議題に入らせていただきます。議事の進行につきましては市長よろしくをお願いいたします。</p> <p>市長</p> <p>それでは、議事進行を務めさせていただきます。円滑な議事進行にご協力いただきますようお願いいたします。それでは早速、議題に入らせていただきま</p>
--	--

事務局	<p>す。</p> <p>(1)「中学生体験学習事業について」を議題とし、まずは事務局より説明をお願いいたします。</p> <p>お手元の資料1をご覧ください。中学生体験学習事業概要についての資料となっております。愛西市では、特色ある学校行事について定例の教育委員会等で取り上げ、検討を進めてまいりました。</p> <p>本事業の目的について簡単に触れさせていただきます。資料にありますとおり、「中学生が体験学習を通して、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活が持続できるよう現代の様々な問題を直視し、持続可能な開発のための教育、E S Dの理念に則り、生徒自らが新たな価値観や行動変容を生み出し、持続可能な社会を創造していく態度を育む。</p> <p>学校における教育環境はI C T教育の進展により、スクリーンを通して瞬時に情報入手が可能となり、バーチャルな体験や空間に出会うことが日常化されている。将来の愛西市を担い、市や社会に潜む問題を自分事として主体的に考え、身近なところから取り組んでいく生徒を育むため、直接、現地視察・調査をはじめとする実体験学習を行い、本物と出会い、本物が持つ迫力や背景・雰囲気を経験し、関心・意欲を増し、生徒一人一人の学習意欲を喚起する。」を目的とし、事業についての検討を進めてまいりました。令和3年9月補正予算では、この事業に関する基本的な調査に係る費用について、お認めをいただいております。なお、裏面には、先ほど少し触れましたが、E S D等に関する文章も網羅させていただいておりますので、また時間のある時にご参照ください。</p> <p>本事業につきましては、準備委員会を3回、検討委員会を2回開催してまいりました。2回目の9月21日に実施した会議では、本事業の内容、この資料の中ほどにあります基本計画に沿って、ある程度の内容を決定することができました。2番の行先、3番の時期と日数、4番の対象学年に関しまして、本事業では、東日本の震災被災地を中心に、目的に沿った候補地を調査することと決定し、時期と日数、或いは対象学年につきましては、中学校3年生での学校行事、修学旅行を置き換えるような形で実施をしてはどうかというようところで話を進めさせていただいております。5の現地体験、6の経費と財源につきましては、今後実施する調査結果を基に、準備を進めてまいりたいと思っております。また、経費と財源のところについて、保護者負担等についても、行程、内容等を考慮し、財政部局等とも相談、調整をしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。今後の予定につきましては、今年度実施する調査に基づきまして、記載のとおり令和4年度には、実際の学校関係者による視察等、また、新型コロナウイルス感染症の状況にもよりますが、早ければ令和5年度のところで事業の方が実施できればと考えて準備を進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>簡単ですが、中学生体験学習事業につきましては、以上です。よろしく願いいたします。</p>
-----	--

市長	<p>ありがとうございました。ただいま事務局より説明がありました件につきまして、何かご意見・ご質問がございましたらご発言をお願いします。</p>
委員	<p>一保護者としましても、東北地方へ子どもたちが行けるということ、すごく魅力的であると思います。また、愛西市は小中学校給食費の方を持続的に無料にしていること、子育て世代としましては、すごくありがたく感謝しております。</p> <p>行き先が変わること、泊数が増えることにより、保護者への負担が増えること、小学校から中学校へ上がり、1年生、2年生、3年生となっていくうちに、積立金が目に見えて大きくなっていくということもありますので、保護者への負担の方が軽くなることを望んでおります。以上です。よろしくお願いします。</p>
市長	<p>今の件につきまして、事務局、何かありますか。</p>
事務局	<p>先ほど、少し触れましたが、以前では中学校の修学旅行は東京等の首都圏が中心でした。今回、ここ数年の新型コロナウイルス感染症の関係で、行き先の変更が余儀なくされてきた部分もありますし、先ほど、難波委員からもご意見がありました。少し変わったところで今回検討を進めてきました。そういったところも視点に、事業の方も、特色のある学校行事が進められれば良いなと思っております。</p> <p>保護者負担については、なかなか教育委員会一存では決定ができない部分もありますので、今後、色々と関係部局と詰めていきたいと思っております。よろしくお願いします。</p>
委員	<p>コロナ禍の現状において、なかなか外出ができないというところで、今回、本物を見る、触れる、さらに体験するということが生徒たちにとって、これからの生き方、考え方、そして本物を見る目を養うという点で非常に役立つと考えております。ぜひ、愛西市独自の取組を実現していただきたいと思っております。内容にあってはこれから精査されると思いますが、行き先は東北地方ということでございます。その目的に特化して、できるだけ生徒たちに感動を与えるような内容にしていきたいと思っております。以上です。</p>
委員	<p>東北地方の震災を受けたところへ行くという話なのですが、今、市の方でも防災・減災について、かなり強力に進めていただいていると思っております。今、一番不安なのは南海トラフ地震ということになると思っております。それに備えてどう動くかということを実地に立って義務教育の最後の年に考えることは、目的にもありますが、防災意識を自分事として考えることができると思っております。生徒は自分事と捉え、家庭に、そして地域へと意識が広がっていくということで、非常に効果のある取組だと思っております。以上です。</p>

市長	<p>他はよろしいですか。</p>
教育長	<p>こちらをお願いしたのは、子どもたちの日々の生活体験が非常に希薄になっているということがスタートであります。バーチャルな体験はしているものの間接体験や疑似体験が多く、直接体験がないということです。各学校の校長先生方にもお願いをして、できるだけ実体験を伴う学習を進めてほしいとお願いしているところであります。特にSDGsに則って、愛西市の特色のある教育ということを考えた場合、この地域は震災や液状化などの危険があるわけで、愛西市の学校を卒業した子どもたちは全員防災意識を高めていくという思いに立った時、東北の方を選択させていただきました。難波委員からもお話がありました。教育への多額の投資、子育て世代を支援するというような政策のもと進めていくわけですが、意義ある調査を現地に赴かれる方にはお願いしたいと思っております。</p>
市長	<p>ありがとうございます。今年度、現地候補地視察を三か所、実際に行っていたいただいて、それぞれ課題等の洗い出しを行っていただくということと、現状でも数回の会議を開催して、かなりの協議をされていると認識しております。先ほど教育長からもお話がございましたけれども、実際に生徒を送り出すということでございますので、教育委員会としてもしっかりと内容を精査していただいて、実りのある体験学習になるようしっかりと協議を進めていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。</p>
市長	<p>それでは、(1)「中学生体験学習事業」につきましては、以上とさせていただきますので、しっかりと取組を進めていただきますようよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、(2)「GIGAスクール構想への取組状況について」を議題とし、事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>現在の子どもたちにとって、P C 端末は鉛筆やノートに並ぶマストアイテムとなっています。今や仕事でも、家庭でも、社会のあらゆる場所で、I C T の活用が日常のものとなっています。学校においても一昨年度、小学校の普通教室、昨年度、小学校の特別教室、中学校の普通教室、特別教室にプロジェクターと書画カメラを設置しました。また、昨年度末に一人一台端末を整備しました。画像や動画などの資料が黒板に映し出され、児童生徒の意見が瞬時に集計された結果が提示されたりと、旧来からあるチョークと黒板を使った授業のイメージは一新されました。昨年度末は教職員のタブレット活用指導力向上のため、オンラインによる研修会を実施しました。また、市でI C T 部会を立ち上げ、学校での活用方法について定期的に話し合いを行ってきました。今年度は各校にGIGAスクール担当を設け、I C T を活用した事業の推進的役割を担ってもらっています。コロナ禍の状況で、研究事業や研修会が思ったようにできていませんが、教職員の方たちが意欲的に活用方法について研鑽を積み重ねて</p>

	<p>くれました。今年度前期の学校訪問では、教育委員の皆様にもICTを活用した様々な事業の様子を見ていただくことができました。資料2には、現在、学校の事業においてタブレットの活用事例を載せさせていただきました。先月初旬には、タブレットの家庭への持ち帰りを市内全小中学校で行い、タブレット活用の幅を広げてきました。今後、各学校の実情に応じて、家庭での活用を増やしていく予定です。ただ、個人情報保護やSNSトラブルなど心配な部分もあり、継続的に情報マナー教育を行っていく必要性を感じています。以上です。</p>
市長	<p>ありがとうございました。ただいま説明があった件について、委員の皆様方から何かご質問・ご意見がございましたらご発言をお願いします。</p>
委員	<p>先日、第5波で休校や学級閉鎖になるのを前提としてタブレットを自宅に持ち帰らせたというお話があったのですが、自宅に持ち帰られてからの活用状況や問題点は出てきているのでしょうか。</p> <p>名古屋市でタブレット自体の立ち上げができない、途中でクローズしてしまうなどの色々な問題があったと思います。愛西市の場合はiPadとお聞きしていますが、その点は大丈夫だったのでしょうか。</p>
事務局	<p>タブレットの持ち帰りについては、学校から不具合があったということは聞いておりません。持ち帰るにあたっては、ご心配いただいたように、ネットにも繋げるということで、そういった面でフィルタリングを強化した形で持って帰らせること、それからロイロノートからGoogleにアクセスできるわけですが、そのあたりも制限をかけて、まずはタブレットでできることを家でやろうということで持ち帰りをさせていますので、今のところは大きな問題は起こっておりません。以上です。</p>
委員	<p>もう一点だけお願いします。</p> <p>今のところは、問題が起きていないと思いますが、子どもたちは誹謗中傷にあたるという概念や知識、意識がないので、例えば、グループの中での話し合いとかでもそういうことがあるといけないと思います。学校ではSNSの使い方や誹謗中傷の対策はきちんと教育として、指導として進んでいらっしゃると思いますが、どの学校も進んでいらっしゃいますか。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。</p> <p>情報モラル教育に関しては例年行っていますが、特に今年度はタブレットを使うことが決まってきましたので、年度当初から各学校には、情報モラル教育については、しっかりとやってタブレットの活用に入っていたかどうかをお話をさせていただきました。昨日、西川端小学校でも研究授業としてやっていただいた授業の中では、タブレットの活用方法についてということで、子どもたちに使い方、それから今お話が出てきた誹謗中傷等について子どもたち自身で考えて、どうやって使用していけばいいかということを考えさせる授業もさせて</p>

委員	<p>いただいております。以上です。</p> <p>先ほどの事務局の説明にもありましたが、学校訪問にお邪魔させていただきました。タブレット、電子黒板などのICT機器が予想以上に、積極的に活用されていると思いました。今の段階ですが、小学校の低学年、中学年、高学年、中学校、それぞれの発達段階に応じた活用方法を、まだ探っている状況かと思えます。そういう意味でGIGAの後半部分の入り口にあるのかと思えます。この後、先ほどありましたように問題となる事例も生じますし、効果的な活用方法等についての研修が必要になってくると思えます。セキュリティの課題も含めて、専門家の指導、協力を今後も継続してお願いしたいと強く思います。</p>
市長	<p>ただいまの件、事務局として発言がありましたら。</p>
事務局	<p>貴重なご意見ありがとうございました。</p> <p>市の方もICT部会を定期的を開催させていただいて、学校の問題点等を出し合ったり、学校でうまくいっている点を皆さんで話し合ったりして、市内で共通した考えで進めていけるように話し合いをさせていただいていますが、今のご意見をいただいたこととお話しして進めていきたいと思えます。ありがとうございました。</p>
委員	<p>関連して、市の専門家の方の指導も入っていますよね。</p>
事務局	<p>今、事務局ではICT支援員の契約を予算で認めていただきまして、行っております。この支援員が学校を定期的に訪問しまして、ICT推進の支援を行わせていただいております。そちらの支援員がリテラシーに関する教育も行っておりますし、先生方への研修とまではいかないですが、手助けを行わせていただいておりますので、そちらを今後も継続して行っていきたいと考えております。</p>
教育長	<p>まず、プロジェクターの整備につきましては、愛西市は本当に早く、タブレットがあってもプロジェクターがなければ、本当になかなか進めないという状況下であって、プロジェクターを早期にタブレットの前に整備していただきまして有効に使っております。それがなければ、どういう事業展開になっていたのかと感じます。今、タブレット、ICT教育がどんどん進んでいますが、これも光と影があるということをお知らせしておかなければいけないと思っております。例えば、オンライン授業のためにタブレットがあるわけではなくて、日々の学習の時に活用するという、それとあまりにもスクリーンに頼ってしまうと、視力の問題であるとか、或いは文字を書く力がきつと声高々に叫ばれるように思いますので、このあたりのことも指導していく必要があると思っております。以上でございます。</p>

<p>市長</p>	<p>私自身も先日、GIGAスクール授業、タブレット授業を拝見しましたが、思った以上に低学年の生徒が使いこなしていることに驚きと期待がありました。また、授業中の小テストも全てタブレットで行われまして、採点がすぐ終わるということで、うまく活用していただければ、今後の子どもたちの学力向上に結び付いていくのではないかと期待しております。教育長も言われましたが、影の部分、個人情報等、非常に注意しなければならない部分もございますので、そういった部分につきましては、サポートしていただいている支援員の方々、また学校の先生たちの実際の状況をしっかりと情報共有して、各学校、注意をしながら有効に活用していただきたいと思っておりますし、定例の教育委員会の会議の中でも確認していただきたいと思っております。</p>
<p>市長</p>	<p>GIGAスクール構想の取組についてはよろしいですか。それでは、今後も注意深く見守っていただきたいと思っております。</p> <p>それでは、続きまして（３）「学校部活動の地域クラブへの移行について」を議題とし、事務局より説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>学校部活動の地域クラブへの移行について説明させていただきます。現在、子どもたちを取り巻く大きな課題の一つとしまして、小中学生の体力低下がございます。資料３-３をご覧ください。こちら令和元年度のスポーツ庁の調査における愛知県の状況につきましては、小学校５年生男女と中学校男子では最下位ということをおっしゃいました。資料の青い部分でございます。この部分は愛西市が全国の平均値より下にある種目でございます。今年度、愛西市におきましても小学校３年生から中学生までを対象にスポーツに関する調査を行いました。</p> <p>資料３-１をご覧ください。その結果としまして、土曜日、日曜日などの学校の休みの日に何時間ぐらい運動しているのかを聞いたものでございます。一番上のグラフで、小中学校全体で①の部分が運動はしていないと答えた児童生徒で、②の部分が１時間くらいということです。この２つを合わせた、あまり運動をしていない割合というものが、全体の５０パーセントを超えているような状況でございました。現在、子どもたちの体力低下、運動不足を解消するために、各学校におきましても子どもたちの体力向上に、それぞれ取り組んでおります。具体的な事業としましては、体幹トレーニングや独自のストレッチ体操、冬季の縄跳びなどを取り入れることにより持久力をつけたりという授業を行っております。</p> <p>資料３-２をご覧ください。運動をしている児童生徒の運動の内容を聞いたものになります。教育委員会の当面の目標としましては、中段のグラフ、小学生の②の部分がスポーツ少年団になっております。③の部分がその他のスポーツクラブなどで、このような活動の人数を増やすことを当面の目標といたしております。また、国の動きとしましては、今までの部活動は教職員の献身的な勤務により支えられておりましたが、休日に教職員が部活動の指導に携わる必要がない環境の構築が必要であると文科省から示されております。教職員の働</p>

	<p>き方改革と持続可能な部活動のために、休日の学校部活動を地域で受け入れる体制整備を進める必要がございます。その中で教職員につきましても希望があれば地域の指導者として活動していただけます。</p> <p>愛西市としまして、令和5年度からを目途に一斉には難しいものの段階的に少しずつでも中学生の学校部活動を地域で受け入れられる体制整備を進める予定をしております。愛西市の現状にあった進め方としましては、中学生を受け入れていただけるスポーツ少年団等の団体をできる限り増やしていきまして、そのスポーツ少年団へ小学生から加入していただいて、その後引き続き地域クラブとして活動できる状況がつかればと考えております。</p> <p>資料3をご覧ください。愛西市としてどのような計画で体制整備を進めるかについて、年度ごとの各課や学校におけるそれぞれの役割や問題・課題などをまとめた地域クラブへの移行計画（案）として考えておりますので、よろしくお願いたします。以上です。</p>
市長	<p>ありがとうございました。ただいま説明をいただきました件につきまして、何かご質問・ご意見がございましたらご発言をお願いします。</p>
委員	<p>中学生という年代の運動ということについて考えていくときに、スポーツ少年団の延長路線で運動をしていてくれれば、中学生を受け入れてくれればありがたいというようなスタンスのところからスタートになりますけれど、私は、中学生の時代、あまり勝ち負けにこだわることはよくないですけれども、負けることから学ぶことは、人格形成において中学生の世代の子どもにとって、大きな機会だと思っております。そういった機会が中学校の部活動なら郡市の大会であるとか、中小の大会があつて自分のやってきたことの評価であるとか、試合で勝ち負けが決まっていくことが体験できるわけですが、地域クラブに移行することで、そういう場が減っていくとかになると、中学生の本人にとっては、その機会を失うことは残念なことだと私は個人的に考えます。文化系のクラブであれば、愛西市の文化祭でお互いに発表し合つて比較できますけれど、運動系の特に球技の団体競技になりますと大きなことになってきますので、なかなか難しいと思います。子どもにとっての体験の機会を減らすことのないように大人の立場から子どもの配慮をいただきたいと思います。</p>
市長	<p>ありがとうございます。他には。</p>
委員	<p>ただいま説明をいただきましたが、移行計画（案）を見たときに教員、保護者、学校などという言葉がたくさんあつて、学校の部活動は、今厳しい状況になったから、地域クラブに移行するというようなちよつと間違つた読み取りをされるといけないと思いました。説明にありましたように、スポーツ団体のスポーツ少年団だとか、新たに結成されるかもしれないのですが、そうした地域の団体が、スポーツ面もあり、芸術面もあり、地域で中学生を受け入れていく方向での提案ということでそこだけを確認します。</p>

事務局	<p>委員のおっしゃる通り、いきなりというのは難しいものですから、徐々にという中で、一旦は、土・日、祝日に関しまして、地域で練習していただいて、大会とかある場合は、中小大会とかありますので、学校から出て行っていただくとか、そのような形で、順次、できるところから移行ということを考えております。</p>
委員	<p>3年間で、令和5年に移行できるような表現に読み取れるのですが、これはそういう方向に進んでいくということで、説明があったとおりにかと思っておりますので、よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>令和5年度からスタートということで、そこまでに体制を整えていくことで考えております。</p>
委員	<p>少子化で子どもたちが減ってくるという現状の中で、魅力的な地域のクラブがたくさんできたら、中学校で本当は剣道がやりたかったけれど剣道部がないとか、テニス部、バスケ部が無くなっている学校がありますので、そういうところが地域の中学生も受け入れていただけるといいと思います。小学生だけでなく中学生を受け入れていただくと、中学校に入ったときにやりたかったのにやりたくない部活に入るといことも減り、子どもたちに対しても明るい希望を見いだせると思うので、より良い体制を作っていただきたいと思えます。例えば、先ほど、おっしゃっていた土曜日、日曜日だけの活動であるとなると、平日、子どもたちは時間を持て余してしまったりしますし、体力低下というところも根底にあって始まっているところですので、バランスよく進んでいくように考えていただけると有難いのですが、よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>スタートは土・日曜日しか難しいかもしれませんが、団体と話をしながら進めていきます。</p>
委員	<p>これから順次、地域クラブに移行をするという計画ですが、前からの地域クラブに指導者がいて、指導がやりたいという先生もお見えになると思います。指導者の育成も考えていただきたいと思えます。財政支援、援助、補助金など、それもできたら地域クラブ、指導者の方に少しでも補助金が出せないものかと思えます。</p>
事務局	<p>指導者につきましては、課題の一つでございまして、団体の中でも指導者がみえて人数が限られておりますので、いかに育成、増やしていくのかというところがございます。先生方につきましても学校教育課と調整しながらご希望がいただければ、地域クラブでもご活躍いただくようなことを考えております。サポート体制につきまして、愛西市のスポーツ少年団につきましては、指導員の補助がございまして、ある程度補助活動ができていると考えております。一</p>

<p>教育長</p>	<p>般団体に中学生を受け入れていただいたときに、こういったサポートができるかということは今後の課題になってくるかと思います。</p> <p>視点を变えさせていただきまして、(体力・運動能力が) 全国最下位の愛知県でありますので、これから子どもたちが生きていくうえで、この時期に体力をつけないと、大きな観点からは学力に匹敵、学力以上に大切であると思っております。体が資本ですので、この時期にやるべきトレーニング、体験、鍛錬をしていってほしいと、そのための活動の展開をお願いしておりますが、このコロナ禍が追い打ちをかけまして、外で遊ぶことがなくなりました。これも後で影響が出てくるのではないかと思っております。</p> <p>委員から学校、教員という固有名詞が出てくる話がありましたが、これにつきましては、移行期はどうしても学校が軸足乗せてやらないとどこも動かないということですので、致し方がないことであると思っております。また、クラブチームやスポーツ少年団、愛西スポーツクラブがありますので、どんどんPRして体力をつけるだけでなく、そこで埋まっている人間関係の絆であるとか、そういったことも体験不足が危惧されますので、是非進めていきたいということです。ご支援をよろしく申し上げます。</p>
<p>副市長</p>	<p>それでは私から少し。地域クラブの移行については、ドイツのスポーツ少年団は去年か、一昨年、愛西市にみえたのですが、ドイツでは中高生がスポーツ少年団に入っていることですので、日本スポーツ協会、日本スポーツ少年団協会を含めて、そういうところからの愛西市としてのPRとかやっていたと、市がPRしていただいて学校の勧誘をするような形にもっていったと、スムーズな移行ができると思います。スポーツ少年団については、財政支援ができると思いますけれども、スポーツ少年団を活用する形で、3年、4年、5年の中で精査をしていくのがいいかと思っておりますので、まずは地域で受け皿をできるだけ多く作るというのがスポーツ課の役割であると思っております。学校任せではなくて行政がスポーツ少年団の育成を考えていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。</p>
<p>市長</p>	<p>私から少し意見なのですが、中学校の大会というものは、いろいろなルールがあって、参加できる構成とか、参加できない構成があるので、地域クラブにした場合に、それぞれの大会に今までどおり参加ができるのかどうか、教育委員会としては確認しているのですか。例えば、今であると野球でいえば、リトルリーグやシニア等に参加している選手は、学校の部活では登録できないとか、いろんなルールが現状ありますので、そういったことを解決していただかないと、そもそも地域クラブを作っても、試合等に参加できなければ、先程、委員さんもおっしゃいましたが、勝ち負けの試合すらできないということになるので、教育委員会、各地域でしっかりと協議を進めていただきたいと思っております。</p> <p>小学校のスポーツ少年団につきましては、指導者の方に非常に熱心に指導し</p>

	<p>ていただいておりますけれども、各スポーツ少年団、選手、生徒を集めるのに非常に苦勞されておりますし、すでに学区割は無くなっている現状がございますので、そういったことを十分に理解して進めていただかないと、今後中学校の地域クラブにしたときに、学区で作るのか、それは無しにして愛西市だけで作るのか、または愛西市という枠も外してやられるのか、そういったことも十分に検討していただきたいと思います。今まで小学校のスポーツ少年団に対して各学校、例えば、団員募集のチラシをなかなか配布していただけなかったといった過去の歴史がございますので、そういったことをしっかりと踏まえて協力をしていただかないと、指導者の方々も集まりにくいのではないかと考えておりますので、しっかりと連携をしていただきたいということと、実情を踏まえた進め方をしていただきたいと考えております。</p> <p>学校のルールの方は進めていかれるのですか。</p>
事務局	<p>今、ご指摘のあった中小連盟が行っている大会で言いますと、中総体になってくると思いますが、国が示している今回の地域クラブへの移行のガイドライン等の資料の中にもそういった団体の見直しの項目も入っておりますので、現状、具体的にはお答えできませんが、大会の在り方についても、今後、調整が入ってくると思っております。</p>
市長	<p>しっかりと、変更する時期に重なった中学生の皆さんにはすごく負担がかかると思っておりますので、そういったことができるだけ軽減されるように仕組みをしっかりと教育委員会としても協議していただいて、移行する場合はスムーズに移行ができるようにしていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。特に、学区がないということは十分に理解をしていただきたいと思っております。</p>
市長	<p>それでは、(3)「地域クラブの移行」につきましては、以上とさせていただきます。</p> <p>続きまして、(4)「小中学校施設老朽化対策について」を議題とし、事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>よろしく申し上げます。</p> <p>資料4並びに資料4-1をご覧ください。令和2年度から取り組みを開始させていただきました愛西市小中学校施設老朽化対策検討委員会でございますが、残念ながら新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言等で、委員さんにお集まりいただく機会を設けることができませんでした。資料4には現在までの委員会の開催スケジュール等を載せさせていただきます。</p> <p>資料4-1をご覧ください。こちらにつきましては、現在の愛西市立の学校施設の一覧、建築年を載せた一覧となっております。詳細についての説明は割愛させていただきますけれども建築年を見ていただくと分かるように、現時点で築50年、60年といった校舎等が見受けられる状況となっておりますので、早急に老朽化対策等の検討を進めていく必要がある状況です。</p>

資料4にお戻りいただきまして、現在までの検討委員会ですけれども、先ほど申しあげました令和2年度委員会を設立させていただきましたが、残念ながら令和3年1月19日が最初の委員会となりました。最初の委員会から何回か開催させていただいております。委員会の中では、愛西市における各学校の校舎等の状況並びに現況についてを触れさせていただいた後に、今後、提言をいただく形になりますけれども、その提言の作成に向け各学校に直接、委員に出向いていただきまして現地視察に入らせていただいている状況です。本来であれば、現地視察が終わっていてもよい時期であります。項目の4であったり、8であったり、(新型コロナウイルス感染症の)緊急事態宣言により学校にお邪魔できない状況が発生しております。現在、すべての学校を回りきれている状況ではありません。残り6校になります。すべての学校を回って、提言書の内容を詰めていただく作業に入りたいと思っております。各学校におきましては、バリアフリー、或いはトイレ等の環境整備、また学校施設の機能面等につきましても、老朽化、経年劣化のみだけではなく、そういった面、各種方面についても検討する必要があると思っておりますので、そういったところにも触れていきたいと思っております。今年度中には、提言書を委員会でとりまとめることを目指しております。提言書を受理した後は、今後の長寿命化、或いは更新等、具体的な対策等について、早期に着手していかねばいけないと思っておりますので、準備を進めていきたいと思っております。

以上です。よろしく申し上げます。

市長

ただいま事務局から説明のあった内容につきまして、何かご質問・ご意見がございましたらご発言をお願いします

委員

検討委員会が令和2年度に設置されまして、コロナ禍で活動が、始まりが遅延しているというところで、また、度重なる緊急事態宣言によって予定していた行事が進まなかったという経緯を見ているところですが、今月、立田地区の小中学校を見ていただくことで、この結果を知りたかったことが正直なところでございます。とは言うものの私たち教育委員もこの検討委員会ができる前に、教育委員会でそれぞれ愛西市内の各学校を見させていただいて、私は、立田地区の学校訪問しかしておりませんでしたし、立田地区のそれが当たり前のこととして認識があつて、他との比較ということがありませんでしたので、その時に各学校を回って、立田地区の昭和30年代建築の校舎の特異性を改めて認識した訳であります。古いという問題点ですが、立田地区の校舎は2階建てですので耐震工事の対象外になります。対象外になることは良いんですけれども、当然備え付けられているはずの非常階段が、使うのに不安があるようなことでは、子どもたちの安心安全が確保されているとは到底言えません。と言って新たな長寿命化の投資をするという対象にも築60年という校舎では、ならないと思います。10月20日に予定されている現地視察、そして検討委員会の最後のとりまとめの結論、どうなるかわかりませんが、立田地区の50年、60年という校舎を抱える私としては、一刻も早い結論を受

	<p>けての対応をお願いすることしかできません。お願い申し上げます。</p>
市長	<p>ありがとうございました。他に。</p>
教育長	<p>委員の意見と関連であります。立田中学校、立田南部・北部小学校、それと経年しているのが佐屋の小中学校、そういったところは老朽化が激しいというようなことです。これが10年経てば、いろんなどころの老朽化が激しくなるということです。特に、教育委員会としましては、やはり子どもたちの安心安全な教育環境整備を最優先にお願いしたいと思っております。教育委員会で立田の小学校、中学校を視察に行きまして、或いは学校訪問でお邪魔したときに、老朽化が甚だしいと思いましたので、検討委員会での結果を待ちたいと思います。できるだけ現実的な提言があることを望みます。</p>
市長	<p>他には。委員さんよろしいですか。引き続き検討委員会を進めていただきますよう、よろしくお願いします。(4)「小中学校施設老朽化対策について」は、以上とさせていただきます。</p> <p>続きまして、(5)「小中学校規模等適正化について」を議題とし、事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>小中学校規模等適正化について、説明させていただきます。愛西市教育委員会では、将来を見据え児童生徒が生きる力を見つけ、確かな学力、豊かな心、健やかな体を育むことができるよう、子どもたちのより良い教育環境の整備のため、学校規模及び学校配置の基本的なあり方について、愛西市立小中学校適正規模等基本計画を平成27年2月に策定しております。学校規模の将来推計を基に平成28年9月には、愛西市立小中学校適正規模等検討協議会から「愛西市立小中学校適正規模等の提案」が提出され、適正規模による児童生徒への効果を第一優先に考え、小中学校規模等適正化に取り組んでいるところです。</p> <p>資料5をご覧ください。この資料5の詳細説明につきましては、割愛させていただきますけれども、各学校の児童生徒数の推移を表とさせていただきます。表面の下の表には、過去6年間の出生数を参考につけさせていただきます。表面が小学校、裏面が中学校の表となっております。2021年までは実績数、2022年以降は推計値を載せさせていただきました。</p> <p>続きまして、資料5-1をご覧ください。学校教育課では、小学校別の0歳から6歳までの年齢別未就学児数について、毎月確認をさせていただいております。先ほどの小学校、中学校の今後の推計につきましては、この未就学児の表を基に算出させていただきます。令和3年10月1日現在の全学区についての数字で少し説明させていただきます。平成30年4月から平成31年3月までに生まれた3歳児は407人、平成31年4月から令和2年3月までに生まれた2歳児は397人、令和2年4月から令和3年3月までに生まれた1歳児は295人、一番左の0歳の欄、令和3年4月から令和4年3月までとなっておりますが、10月1日現在ですので半年間の数字になりますけれども</p>

173人という状況です。ちなみに前年同月でいきますと140人の実績であり、その時よりは少し増えているようになっております。

平成26年度から進めてきました小中学校規模適正化、小中学校の適正規模等についての検討において、資料5-2をご覧ください。平成26年から進めてきた検討においての資料と、現時点、実績等について入れさせていただいた表となっております。平成27年2月に示された愛西市立小中学校適正規模等基本計画の資料によりますと、一番左の列になりますが、平成26年の市内小学校1年生の児童数が506人、平成32年の推計値では394人でした。平成32年推計値の横に令和2年の実績値が入れてあります。令和2年の実績値としては461人という状況となっております。1年生の児童数の推移につきましては、概ね平成26年時に推計した推計値に沿った推移をしてきております。小学校によっては少しばらつきがあるものの、概ね沿った推移をしてきたところでありますけれども、資料5-1でご確認いただいたとおり、令和元年度と令和2年度では100人近くの減少が確認され、想定外の状況となっております。今後においても注視が必要な状況となっているところでございます。

ここで今までの小中学校適正規模等における検討の経緯について、少し確認させていただきます。資料5-3をご覧ください。適正規模等についての検討の経緯を時系列で作成させていただいております。概要について説明させていただきます。平成26年5月から平成26年11月にかけて愛西市小中学校適正規模等検討委員会が5回開催され、平成27年1月には愛西市小中学校適正規模等検討委員会から愛西市教育委員会へ「愛西市立小・中学校における学校規模及び学校配置の基本的在り方について」の提案があり、愛西市教育委員会において、平成27年2月に「愛西市立小中学校適正規模等基本方針」を策定しております。その後、平成27年7月から平成28年8月にかけて愛西市小中学校適正規模等検討協議会が8回開催されております。平成28年9月には愛西市教育委員会へ「愛西市小中学校適正規模等の提案」が提出され、定例或いは臨時教育委員会で10回にわたり検討をし、平成29年9月の教育委員会において適正規模等の方向性の決定がされました。

地域懇談会につきましては、平成27年10月に佐屋会場・立田会場、11月に八開会場・佐織会場で開催をしております。保護者説明会については、平成29年9月、11月に八開会場・立田会場で開催をしております。その後、平成30年5月に八開地区の学校を守る有志の会による署名活動が開始されて、8月には「愛西市立小中学校適正化政策に反対する要望書」が反対署名とともに提出された経緯があります。

地域説明会につきましては、第1回を平成30年7月に八開会場・立田会場、第2回を令和元年9月に八開会場・立田会場で開催をし、現在に至っている状況でございます。地域説明会の場では、地域コミュニティや防災、立地条件などに関する意見が主なもので、児童生徒の教育環境の整備に関しては、あまり語られた方がなかった状況です。また、校舎建設やスクールバスの運行等に対する意見や少子化対策、或いはまちづくりに関する意見等、さまざまな意見が寄せられています。市として子育て世代に魅力ある事業、施策の実施、検討に

	<p>ついて、今後、引き続き取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。</p>
市長	<p>ありがとうございます。今までの経緯等が説明されました。この件につきまして、委員の皆様方から何かご質問・ご意見がございましたら、ご発言をお願ひします。</p>
委員	<p>今、事務局から検討の経緯等についての説明と地域説明会でどんな意見が出たかということをお伺ひしましたが、愛西市は厳しい財政の中で、子どもに対して手厚い対策をいろいろ実施していただいていると思います。改めて市長にお礼申し上げます。例えば、最近ですと給食費無償化とか、先ほども議題の中にありました体験型学習、新しい授業に対して、かなりの予算を組んでいただくことになると思うのですけれども、全市的にこういうことが、皆さんに周知されているかという、給食関係だとご家庭の中に小中学生、幼稚園児が在籍していないと、あまり知らないのではないかと思います。少子化対策、国を挙げての対策となるので愛西市だけではもちろんないですけれども、愛西市もこれから魅力ある市となっていくために、もう少し具体的に少子化対策に対して何かやってらっしゃることとかアピールしていけるといいと思うことがありましたら教えていただけますか。</p>
事務局	<p>少子化対策ばかりでなくて、児童生徒の保護者への支援の意味も含めて、ご発言いただきました給食費無償化等を進めております。最初の議題で触れました体験型学習授業につきましても、これについては中学生ですけれども魅力のある愛西市ということで、中学生を呼び込むことができればいいかと思っております。これも先ほど触れた小中学校施設の老朽化対策とも少し関連しますが、例えば、少し前に実施した普通教室への空調の整備、これについては学校適正化の動きがあった中、全普通教室に財政部局の協力を得て空調の設置ができております。また、トイレ改修等についても児童生徒の学習環境の適正化について、各学校で順次、進めております。GIGAスクール関係につきましても同様で、これも先ほどお話の中にありました電子黒板、プロジェクターの設置についても、すべての学校で整備を進めさせていただいております。</p> <p>実際に学校に関わっている児童生徒並びに保護者以外へのアピールが少し足りないというご指摘については、今後、受け止めて対策をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。</p>
委員	<p>エアコン設置、GIGAスクール、体験型学習授業、給食費無料化等、数え上げたらかなりの数になっていくのではないかと思いますので、それも魅力ある愛西市としての一つの大きな要因になっていくと思います。活動すること、実施していくこと自体がメインでありますけれども、アピールも大切かなと思います。これからも、どこもやっていない、他の自治体がやっていないことは、取り組んでいただけるとありがたいと思いますので、よろしくお願ひします。</p>

事務局	<p>ご指摘のとおり近隣自治体に比較して愛西市の教育関係に対する財政の支援的な部分、かなり手厚くしていただいています。ありがたいと思っておりますし、それに甘えることなく事業実施を進めていきたいと思えます。</p>
委員	<p>この小中学校の規模適正化についての思いを発言させていただきたいと思えます。今日もこの会場へお邪魔するにあたって、階段にあるSDGsの項目を見ながらまいりましたが、学校規模適正化を目指しての学校統合案は、望ましい児童生徒数や教員の配置などでSDGsの項目4にあります「質の高い教育をみんなに」それを実現するために進めてきていると考えております。ただ教育委員会が方向性を示して4年になりますが、学校統合に向けての環境は整っていない状況です。また、平成28年9月に適正規模等検討協議会が基本計画を提案されましたが、この5年で予想以上に少子化が進行し、現在の統合案では、学校規模適正化になるか危惧されている状況になっていると思えます。</p> <p>こうした状況を踏まえると、今一度、先ほど提示のあった児童数の推移などを基にして、基本計画の検証が必要であると考えます。SDGsで言いますと項目11に「住み続けられるまちづくりを」というのがありますが、この4年間、学校が無くなると過疎化が一気に進むという声を多く聞きました。小中学校は、地域コミュニティの大事な単位になっていますし、緊急避難場所等に指定されている防災拠点にもなっています。基本計画を検証される折には、教育委員会だけではなく、小中学校に関わる部局が集まって財政面を含めて、望ましい学校配置を検討していただく必要があると思えます。</p> <p>学校の配置については、本当に難しい問題です。先ほどの老朽化のところでもありましたが、できるだけ早く安全確保のために対策を必要とする学校がありますし、児童数が5人を割っているような、そういう学年も生じてきていますので、検討する際には5年先までに対応すること、校舎や施設の耐用年数等を考慮すれば10年先で間に合うもの、15年先で間に合うもの、そういうものがあると思えますが、そうした段階を追っての配置計画、建設計画等を立てていただくと、市役所の階段の最後にあります「未来につながる「愛西市」へ」という道が開けるのではないかと、そういう思いを持っております。</p>
市長	<p>ありがとうございました。他に委員の皆さん、何かご意見、よろしいですか。</p>
委員	<p>規模適正化というのが、子どもたちの集団、学校の中の集団がどれくらいの人数が必要かという専門的なことは分かりませんが、ただ経験として、福原分校が休校から閉校になっていく、その間に展開された地域の皆さんと教育委員会との話し合い、そういった経緯の中で自分の考えをお話させていただきたいと思えます。</p> <p>福原分校が休校、閉校になっていく一番の原因になったのは、子どもの数が減っていく、その上に少ない人数でゆったり子どもに対する教育が受けられるということが、必ずしも良いところばかりではないという親の判断が、特に母</p>

親の皆さんの判断があったことを思い出します。分校の教育というのは、愛西市の初任者研修に使われるように教育の原点と言われており、私も学校訪問で分校に行くときには、自然環境といい、教育環境といい、これが恵まれていると思っていましたけれど、就学児を持つ母親の意見として、ここでゆったり過ごすことは良いけれども、これから中学校へ、社会へ出ていく子どものことを考えるとここで6年間を過ごすのは不安ですと、現実的な意見を聞いたときに強い衝撃を受けまして、一番良い教育環境とは何かということを改めて考え直さなければならないと思いました。そして子どもを持つ母親の意見を直に聞いたときに、これが本当の意見だろうと思いました。その後続くスクールバスに対する要求であるとか、本当にさまざまなご意見をいただいた訳ですけど、母親の子どもを思う、それも目先の子どものことではなくて、将来を見据えた考え方、なぜ福原地区で将来を見据えた考え方を母親の皆さんが考えられたかということ、福原地区は中学生になると、立田大橋ができる以前は、長島の中学校へ6 km、40分かけて自転車で通っていた訳ですけど、立田大橋ができて福原からこちらへ通うことになったときに、福原の子どもたちは長島の言葉を話していました。立田に来て言葉が違うという基本的なところからギャップがありまして、何人かの子どもが中学校に通えないという事例が実際にありました。30年前の話ですが、そういったことがありました。そういったことを考えると子どもにとって本当に良い環境というのは何なのか、私には断言することはできませんが、先ほどの老朽化と合わせて、生まれている数が決まっていて、5年後に入学してくる事実が控えている訳ですので、これも老朽化と合わせて判断ができる知識と経験を持った方々の、先ほど検証というお話がありましたけれども、そういったことを加味した協議が深まって対応されることを、切に願いますところ です。

市長

ありがとうございました。他にご意見等はよろしいですか。

教育長

地域の皆様方から、地域コミュニティであるとか、立地条件であるとか、校舎建築やスクールバス、色々と話をいただいております。そもそも愛西市の教育大綱には、「郷土を愛し」というのが載っておりますし、心豊かで逞しくしなやかな人材の育成ということで理念として掲げております。委員のお話と重複しますが、しなやかさを身に付けるには色々な体験をしないとイケないと思います。一定の数の子どもたちがいるということは、やはり多様な価値観との出会いにも通じるわけでありまして、そのためにはやはり一定の子ども数が必要ではないかと思っておりますし、色々なご意見の中には、小さな声であると思いますが、早く進めてほしいという意見も実は届いております。平成27年5月にアンケートを取っていただいた時の記録がありますが、スクールバスならいいですという意見は伺っております。ただし、地域説明会や色々な話の中で、校舎建築やスクールバスについてはいかがなものかという厳しい意見もいただいております。そういったことも踏まえて進めていかなければいけないのでしようが、特に協議会が基本計画を提言したのが今からちょうど5年前

	<p>でありまして、この時から比べて児童生徒の数がかなり減ってきています。したがって、これから5、6年後は市内のほとんどの小学校が小規模校化することが予測されます。子どもたちがより良い教育環境で学習できるように、全ての小中学校を俯瞰的に見まして、老朽化対策を含めてこれまでの基本計画を現状と照合し、検証する時期に来ているのではないかと感じております。教育委員会としましては、適正配置の視点としまして、やはりより良い教育環境を最優先していただいて、地域づくり、まちづくり、防災、そして既存施設の利活用や財政面を念頭に置いて進めてまいりたいと思っております。ただ、我々の立場としましては、一番最優先は子どもたちのより良い環境を整備していくことに変わりはありません。市長部局にて、検証する委員会を立ち上げることをお認めいただくとありがたいと思っております。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。副市長。</p>
<p>副市長</p>	<p>それでは私から数点お話しさせていただきたいと思えます。</p> <p>まず、教育委員会にお願いしたいのは、老朽化検討委員会を進めていただいておりますが、提言の内容については、教育委員会がこういうこととこういうこととこういうことを盛り込んでくださいということを、きちんと指導していただきたいと思いますと思っております。それから2点目ですが、小中学校の1校あたりの適正規模というのは、国に示されていると思っておりますが、愛西市としてどうだということを市民にわかるように公表していただいて、こういう考えの基に適正規模を進めていきたいということを教育委員会にお願いしたいと思います。</p> <p>先ほどから、少子化だとか激減する人数の説明をさせていただいておりますけれども、その中で、経緯等の説明はされましたが、市として打開策をどうするかということを考えていかなければならないと思っております。これは教育委員会ではなくて市長部局でそういうことを考えていかなければならないと思っておりますし、学校が無くなると地域が寂れるということもございましたので、その辺も含めて地域の方だと話し合いをしたりだとか、ワークショップをしたり仕組みを作るなど、最終的には住みやすい地域を作るために、市長部局の方で考えないといけないと思いました。あとは、現状と分析、打開策等のところできちんと話し合っ市のあり方を決めていきたいと思っております。以上でございます。</p>
<p>市長</p>	<p>それでは私から最後に考えを述べさせていただきます。先ほど、教育長から現状と今後を踏まえて検証したいというお話がございましたが、これについては市長部局も協力させていただきますので、検証作業を進めていただきたいと思います。しかしながら、時間も限られていると思っております。計画ができてから、例えうまくいったとしても、それが実行されるまでには数年かかるということがございますので、そういうことをしっかりと踏まえて、どのように進めていくのか手順を踏まえて、やっていただきたいと思います。特にコロナ禍で状況が見えないので、なかなか計画をしていても進まないこともあるかと</p>

	<p> 思いますけれども、これについては色々な会議の仕方等ございますので、あらゆる手段を講じて、できるだけ速やかに進めていただきたいと思います。また、少子化については、なかなかこの進行を止めることは厳しい状況ではございますが、市といたしましては、少しでも少子化の流れが緩やかになるようにどのような施策を打っていくかということを考えながら、色々な発言をいただきましたけれども、コロナ禍の臨時交付金を活用させていただきました小中学校の給食費無償化を今年いっぱいまで行わせていただいたり、また、GIGAスクールのICTに付属した色々なプロジェクター等、学校施設の整備をさせていただいております。それ以外には、保育園に通われる方の副食代の補助等、さまざまな施策を打っておりますけれども、なかなか外へのPRが弱いのではないかとということもご指摘をさせていただいておりますので、この件については市として、PR方法をしっかりと考えて、できるだけ愛西市が選んでいただけるまちづくりをしていかなければならないと思っております。また、今後、今日の議題にありましたが、部活動の地域クラブの件についても、これをうまく市としてアピールできるような地域クラブになるように考えていただいたり、今後の中学校の大きな授業となる体験学習授業については、しっかりと協議していただいて、よりよいものを計画・立案していただきたいと思います。これらの保護者負担については、しっかりと内容を精査して検討していきたいと思っておりますので、検討段階に早くいくような取組をしていただきたいと思います。特に、現地へ赴く際には、行ってしっかりと検討していただいて、どこへ行くのか、どういった学習をするのか、見てきていただきたいと思います。次世代を担う子どもたちにとって、より良い環境で愛西市を巣立っていただいて、愛西市で活躍したいと思うような子どもを育てるために進めていただきたいと思いますので、教育委員の皆様方には、引き続き、今まで以上にご尽力いただきますようお願いいたします。 </p> <p> 市長 (5)「小中学校規模等適正化について」につきましては、以上とさせていただきます。 </p> <p> 続きまして、(6)「いじめ・不登校の現状について」を議題とします。この議題につきましては、会議冒頭にご説明がありましたとおり、非公開とさせていただきますので、申し訳ありませんが傍聴者の方には一時、退室をお願いします。 </p> <p> 【傍聴者、退室】 </p> <p> 市長 それでは、(6)「いじめ・不登校の現状について」を議題とし、事務局より説明をお願いします。 </p> <p> ・ ・ ・ 「いじめ・不登校の現状について」 状況説明及び意見交換 ・ ・ ・ </p> <p> 市長 (6)「いじめ・不登校の現状について」につきましては、以上とさせてい </p>
--	---

	<p>たきます。</p> <p>その他に移ります。これより先は、公開の会議となりますので、傍聴の方が見えれば、入室を許可します。</p> <p>【傍聴者、入室】</p>
市長	<p>それでは、会議を再開します。</p> <p>3 その他に移ります。事務局からその他、何かあれば。</p>
事務局	<p>特にございませ。</p>
市長	<p>よろしいですか。委員の皆様方、何かあればご発言をお願いします。教育長。</p>
教育長	<p>教育長です。先ほどお認めいただきました、検証に関する委員会の結果が出たところで、また会議の方を、このような会議で報告や課題共有をさせていただきたいと思ひます。</p>
市長	<p>了解いたしました。他によろしいですか。</p> <p>ないようでございますので、以上で議題についてはすべて終了とさせていただきます。活発なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。それでは、事務局にお返しいたします。</p>
事務局	<p>長時間にわたり、お疲れ様でございました。これをもちまして、令和3年度第1回愛西市総合教育会議を閉会させていただきたいと思ひます。本日配布しました資料「愛西市学校別いじめの状況」につきましては、回収させていただきました。</p> <p>ご協力、感謝いたします。ありがとうございました。</p>